



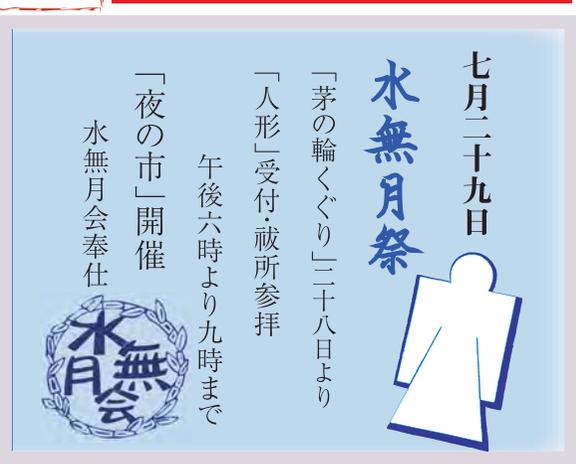
**峯山藩主京極家のご縁**

当社は文化八年（一八一）  
、讃岐の金毘羅大権現のご分霊を勧  
請して創建されましたが、これは  
時の峯山藩七代藩主京極高備公の  
大きなご事蹟として今に伝えられ  
ています。

その証として今もご本殿両脇に  
一對の青銅燈籠があります。文政  
七年（一八二四）に高備公と次男  
の高聰公の名で奉獻されています。  
長男高寧公に早逝され、高聰公  
を跡取りに決められた頃の奉獻で、  
こんぴらさまのご神威を授かるう  
と祈願を修められたものです。

丹後国で江戸時代を通して明治  
維新まで治められたのは峯山京極  
家ですが、歴代が苦慮された  
のは次代への家督継承です。特に  
高備公はお世継ぎで最も苦労され、  
家門と領地の繁栄を祈られたお心  
が今に伝わっています。

治政二五〇年の間峯山藩領内の  
神仏への信仰も篤く、代々のご事  
蹟が今も多く、の寺社に奉納物やご  
社殿、書物や史料などの貴重なご  
縁の証として遺されています。



# 京極高備公のご事蹟

本殿両脇の青銅燈籠の竿には、『奉獻従五位下周防守京極氏源高備』（本殿南側の燈籠）『奉獻従五位下備後守京極氏源高聰』（北側の燈籠）とあり、両方の裏には『文政七甲申年六月』と刻字があります。

緻密な細工が随所に施され、笠・火袋・台座をはじめ「竿」と呼ばれる柱部分まですべてが六角に統一された特別な物で、奉獻者の信仰の深さが伺えます。

長男高寧公に早逝され、跡取りに決められた高聰公と二方の名前で奉獻されています。



七代京極高備公肖像画 常立寺所蔵



震災前は拜殿前回廊の横にあった



緻密な細工が施されている 高備公奉獻の刻字(右上)

高備公の父六代高久公は峯山の分家で旗本の京極家からのご養子、父君が江戸幕府の要職若年寄を務められていたので、代わりに高備公が藩の政務を執っていたとされています。

文化五年（一八〇八）に高久公が亡くなって跡を継ぐと、幕府で一番頭を経て文化九年（一八一二）、父君と同じ若年寄に任せられます。金毘羅権現勧請の翌年のことです。残念ながら高聰公は家督を継ぐことなく、文政十三年（一八三〇）に三十二歳の若さで先立ちます。三男四男は既に他家に養子に下さ

れていたため、天保三年（一八三二）家督を五男の高倍公に譲って隠居されました。しかし、その八代高倍公とさらにその跡を継いだ七男の九代高鎮公がわずかな間に自身に先立って次々と早世するなど、苦難の晩年を過ごされ、天保六年（一八三五）に七十六歳で亡くなられます。

藩主の家督を守り伝えることは大変な苦勞で、特に医薬の技が進んでいない時代のこと、家門の繁栄を神仏に頼ることが何より不可欠なことでした。

二五〇年間の数々のご事蹟が遺る神社にはそのご苦勞を顕彰し、伝えていく使命がございます。

# 京極典子様のご逝去

京極典子様には三月二十六日東京にて一〇二歳の生涯を閉じられました。



典子様(95歳頃)

典子様は現十六代高幸様のご母堂で、十四代高頼公の娘として大正四年（一九一五）のお生まれ、ご夫君は但馬出石藩士の加藤家から婿としてお迎えになった十五代高鋭公で、昭和九年のご婚礼で峯山にお国入りされた際の写真も残っています。その後戦中疎開で峯山でお過ごしになられていて、当時の麗しいお姿が今も語り継がれています。在りし日のお姿をお偲びし、謹んでお悔やみ申し上げます。



ご婚礼でお国入りの際(常立寺所蔵) 右典子様 中高頼公 左高鋭公

昭和9年 京極家廟所御門前

# 京極家御廟所の惨状

峯山藩京極家の菩提寺は峰山町吉原の安泰山常立寺で初代高通公以来歴代藩主の菩提が弔われています。ご本堂内には位牌堂が設けられ、境内の最も奥に御門を構えた京極家墓所があります。急峻な谷地で鬱蒼とした木々に囲まれた荘厳な雰囲気の間所です。

平成二十七年十月、この周囲の急峻な斜面に立つ大木が倒れ墓石群を直撃、十数基の墓標と周囲を囲む玉垣が悉く被害を受けました。相当な枝ぶりの大木で復旧は大事業になることから、しばらくそのままの状態でしたが、これまでに常立寺様と市内造園業者さんの厚意で倒木だけは撤去されました。しかし今も墓石群倒壊の惨状が続

き、今後復旧と土砂の撤去作業に取りかかれる運びです。



被災前の墓所



倒木撤去前の惨状

峯山藩京極家墓所は、当社同様昨年度から設けられた京都府暫定登録文化財にも指定されていて、府市の指導や補助をいただきながらの復旧事業計画となっています。しかし、元の状態に戻すだけでは周囲斜面が危険な状況のまま、同様の被害に見舞われる恐れは残ります。復旧以降の整備事業を計ることも必要となって参ります。

この峰山にとっても京丹後にとっても第一級の文化財であり、我々市民が長く顕彰し守り伝えていかねばならない場所、何より歴代藩主の御霊安らかにお休みいただくことが願われます。

典子様にも此処にお休みたいたくさうですが、ご納骨は墓所の現状を鑑み、復旧を果たされた後、一周忌にあわせて行われると承っております。

## 役員総代就任のお知らせ

- 増田 晋 殿  
(増録工業株式会社代表取締役)  
総代を委嘱します。  
平成三十年一月一日付
- 井上 五朗 殿  
(金刀比羅神社総代)  
責任役員を委嘱します。  
平成三十年三月二十三日付
- 寺田 義弘 殿  
(社会福祉法人みねやま福祉会理事)  
総代を委嘱します。  
平成三十年三月二十五日付

## 弔慰

- 中山 力 殿(六十七歳)  
金刀比羅神社 責任役員は  
一月十五日逝去されました。
- 中山氏は、平成十七年四月に金刀比羅神社総代、平成二十四年五月には責任役員に就任され、長年神社の護持に奉仕されました。茲にご生前のご功勞を謝し、謹んでお悔やみ申し上げます。

## 金刀比羅神社 役員名簿

- 責任役員 井上 敏 (代表総代) 敬称略
- 錦織 隆  
稲葉悦男(総代兼任)  
松本研二(総代兼任)  
井上五朗(総代兼任)
- 総代 山本喜与彦 田中良剛 修  
森 一彦 寺田厚生  
増田 晋 寺田義弘  
吉村孝道 寺田厚生  
顧問 安田清志 山本英雄 岸田利道  
神社委員
- 金刀比羅会 役員名簿 敬称略
- 会長 稲葉悦男  
副会長 松本研二 田中良剛  
監事 井上五朗 横井邦夫 寺田義弘
- 地区評議員 指名評議員 地区委員
- 元町区 諏訪部英雄 山下重雄
  - 一区 中村 雅 岡崎一芳 吉岡博泰 吉岡 勲
  - 二区 池田芳昭 安田清志
  - 三区 田中孝一 吉見英次
  - 四区 寺田昭夫 西木邦夫 寺田泰政
  - 五区 荻野丈太 横井邦夫
  - 六区 松田寿之 山本英雄
  - 七区 指田守生 荻野正二 由利敏雄
  - 八区 森 一彦 木村成信
  - 九区 淡路弘之 寺田義明 中川芳隆
  - 十区 三木邦彦 赤岩康利 木下讓太郎 奥田晋也
  - 十一区 中邑正樹 小西哲夫
  - 十二区 今田 守 松本鐘三郎
  - 十三区 戸石三吉 小野基一 中村健之
  - 十四区 小林邦夫 小野基一 中井 望
  - 十五区 吉田件昨 岸田利道
  - 十六区 牧野秀太郎 廣野勇夫 西木和巳
  - 十七区 中山宗五郎 岸本博一 由良隆彦
  - 十八区 赤松 保 山本一之